

### 3年生国際系乗船実習（12日から13日までの様子）





一昨日から岸壁で朝の体操が始まりました。ランニング後、上陸後の実習について伊藤先生から諸注意があります。「1年後海国を背負うか、恥と思うか。」佐藤真郷先生からも「修学旅行で来た生徒は違って、乗船実習で大阪に来たプライドを持ちなさい。」服装や集合時間を守りつつ、楽しむところは全力で楽しむ。その言葉に2日間の見学上陸が集約されていました。

食い倒れの街大阪。たこ焼き・お好み焼き屋さんなど飲食店の多さに驚きます。生徒はこれでもかとはばかりに食い倒れていました。お土産もたくさん。集合時間も厳守し帰路に向かいます。「楽しかった、また来たい。」の感想で終わることなく、「食の街大阪が何によって支えられているのか。」に想像力を働かせてほしいです。ワッチで報告した貨物船の数々、友ヶ島水道での往来の多さ、天保山に入港する船の数。海路が食やそれに関する物品を担っていることを美味しさとともに思い出してはみませんか。船員さんをはじめ見えないところで24時間働いている人たちがいる。見聞きして体験したことは一生心に中に残ります。

夜は牧山航海長から講義です。最後に帽子に描かれた「絡み錨（からみいかり）」の意味についての説明がありました。これは船乗りとして恥ずかしいことがないように戒めの意味があるそうです。佐藤真郷先生からも「スマートで、目先が利いて、几帳面、負けじ魂、これぞ船乗り」との格言も紹介してもらいました。船員さんの矜持に触れ身が引き締まる思いです。

文責 陣野